

育児期にある母親に対するソーシャルサポートの実態

—有職の母親と無職の母親との比較—

荒木 美幸¹・大石 和代¹・岩木 宏子¹・渡辺 鈴子²
池田 早苗³・達田志津子⁴・小川由美子⁵

要 旨 226名の育児期にある母親に対するソーシャルサポートの実態と、育児する上で今後母親が希望しているソーシャルサポートについて調査した。母親は主に実母と夫から心理的・手段的サポートを受けており、母親にとって実母と夫は重要なサポートの構成員であることが再認識された。母親に心理的サポートをどういった専門職から受けているか調べた結果、有職の母親は「保母」と「医師」、無職の母親では「医師」が多かった。また母親たちは就業の有無にかかわらず、医療者、託児施設のスタッフ、カウンセラー、ベビーシッターなどさまざまな育児専門職種からの心理的・手段的サポートを望んでいた。よって、今後母親の育児支援ネットワーク作りを検討する必要がある。

長崎大医療技短大紀 13: 127-132, 1999

Key Words : 心理的サポート, 手段的サポート, ソーシャルサポート, 育児期, 母親

はじめに

今日、核家族化・少子化に加えて、地域社会における連帯が希薄になり、育児場面に遭遇したことのない母親が増加するにつれて、育児が母親にとって孤独で不安なものへと変化してきている。このような状況の中、乳幼児をもつ母親にとって夫、実母、義母、兄弟などの「家族」や友人のみならず、保育園、子育てサークル、ベビーシッターなどの「地域社会の資源」からのさまざまなソーシャルサポートは、育児を行う上で重要な役割を果たしている。Norbeck¹⁾は、「ソーシャルサポートとは人と人との相互作用、援助の提供であり、その援助者はその援助を受ける個人が属しているネットワークのメンバーであり、相互に与えたり与えられたりの関係にある」と言っている。つまり母親たちは自分にとって重要な人間関係と考えられる人々を選択し、それらの人々から必要な育児支援を求めているのではないかと考えられる。地域の母子保健活動においては、子育てを行う母親の孤立を防ぐためにソーシャルサポートを強化しようと、さまざまな活動が行われている。そこで、育児期にある母親に対するソーシャルサポートの実態について調査したので報告する（以下、ソーシャルサポートをサポートと略す）。

調査対象および調査方法

対象は、平成11年5月に長崎市内の2ヶ所の保健セン

ターで1歳6ヶ月健康診査の対象者290名の母親に事前に調査表を郵送し、健康診査時回収した。

調査項目は対象の属性とともに、母親が現在受けているサポートと今後希望するサポートについて、サポートに関する他の研究¹⁾²⁾³⁾を参考に心理的サポートと手段的サポートという2側面から調査した。

心理的サポートとは、「子育てをする上で相談のしてくれる人」、手段的サポートとは、「母親本人の具合が悪くて誰かの手を借りたい時、すぐ駆けつけてくれる人」と定義し、現在誰からサポートを受け、今後誰からサポートを受けたいかを夫や実母、兄弟などの近親者や友人、職場の人、また保母、医療者、子育てサークルのメンバー、ベビーシッターなど23種類の人物の中から選択し、複数回答してもらった。なお、正確なサポート提供者の人数を把握するために兄弟や友人など、それぞれに複数人物のサポート提供者が存在する場合にはその人数を記入してもらった。したがって、「サポート提供者数」とは現在のサポート提供者の人数を、「サポート提供者の種類」とは23種類のサポート提供者を示した。また、統計処理はt検定で行い危険率0.05とした。

結 果

1. 回収率

アンケート調査回収率は健康診査対象290名中、健康

- 1 長崎大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻
- 2 長崎市役所地域保健推進課
- 3 長崎市中央保健センター
- 4 長崎市北保健センター
- 5 長崎大学医学部附属病院看護部

診査を受けた239名(82%)で有効回答数は226名であった。

2. 対象の属性 (表1)

母親の平均年齢は31歳であり、年代別にみると30~34才が81名(36%)と最も多く、次に25~29才が69名(31%)と続いていた。子供の数は1人が99名(44%)と最も多く、次に2人が87名(39%)であった。家族形態については核家族が169名(75%)、拡大家族が57名(25%)で、里帰り分娩の有無については里帰り有りが138名(61%)、里帰り無しが88名(39%)だった。現在の就業状況については、有職の母親は63名(28%)、無職の母親は163名(72%)だった。有職の母親63名の復職時期については、産後2ヶ月未満が6名(10%)、2ヶ月以上6ヶ月未満が20名(32%)、6ヶ月以上1年未満が19名(30%)、1年以上1年半未満が17名(27%)、1年半以上は1名(2%)だった。2ヶ月以上6ヶ月未満で復職した母親が3割で最も多く、2ヶ月未満で復職した母親も1割いた。有職の母親63名中45名(71%)は、保母が日中子どもの世話を行っており、12名(19%)が母親本人、3名(5%)は実母、3名(5%)は義母が行っていた。また無職の母親163名中160名(98%)が母親自身で日中子どもの世話を行っており、2名は実母、1名は義母が行っていた。

表1. 母親の属性 (N=226)

年齢	平均 31±5 (21~45) 歳	
	20~24才 23名 (10%)	25~29才 69名 (31%)
	30~34才 81名 (36%)	35~39才 38名 (17%)
	40才以上 14名 (5%)	
子どもの数	1人 99名 (44%)	2人 87名 (39%) 3人 36名 (16%)
	4人 3名 (1%) 5人 1名 (0.4%)	
家族形態	核家族 169名 (75%) 拡大家族 57名 (25%)	
里帰りの有無	有り 138名 (61%) 無し 88名 (39%)	
就業状況	有職の母親 63名 (28%) 無職の母親 163名 (72%)	
復職時期	2ヶ月未満 6名 (10%)	
(産後)	2ヶ月以上6ヶ月未満 20名 (32%)	
	6ヶ月以上1年未満 19名 (30%)	
	1年以上1年半未満 17名 (27%)	
	1年半以上 1名 (2%)	
日中の子どもの世話		
有職の母親	保母 45名 (71%)	
	母親 12名 (19%) 実母 3名 (5%) 義母 3名 (5%)	
無職の母親	母親 160名 (98%) 実母 2名 (1.2%) 義母 1名 (0.6%)	

3. 心理的サポート提供者上位10種類 (図1)

母親が現在もっている心理的サポート提供者の上位10種類については、多い順に実母が226名中194名(86%)、夫が190名(84%)、友人が138名(61%)、姉妹116名(51%)、義母が96名(42%)、近所の人が67名(30%)、実父が37名(16%)、義父が28名(12%)、職場の人が26

名(12%)、保母が25名(11%)だった。

今後希望する心理的サポート提供者の上位10種類については、1位は夫で226名175名(77%)、2位は実母で168名(74%)、以下順に友人が114名(50%)、姉妹97名(43%)、義母が87名(38%)、近所の人が64名(28%)、医師が49名(22%)、保母44名(19%)、実父が33名(15%)、同じ保育園の母親達が31名(14%)だった。

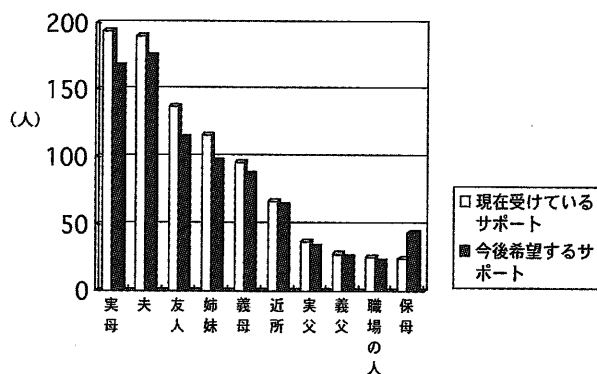


図1. 心理的サポート提供者上位10種類 (N=226)

4. 手段的サポート提供者上位10種類 (図2)

母親が現在もっている手段的サポート提供者の上位10種類については、1位は実母で226名中161名(71%)、2位は夫で160名(71%)、以下順に義母が96名(42%)、姉妹が73名(32%)、実父が48名(21%)、友人が39名(17%)、義父が27名(12%)、近所の人が21名(9%)、男の兄弟が10名(4%)、その他5名(2%)だった。

今後希望する手段的サポート提供者の上位10種類については、1位は夫で226名中171名(76%)、2位は実母で166名(73%)、3位は義母で93名(41%)、以下順に姉妹69名(31%)、実母が48名(21%)、友人が47名(21%)、近所の人が44名(19%)、義父が27名(12%)、ベビーシッター21名(9%)、託児施設の人17名(8%)だった。

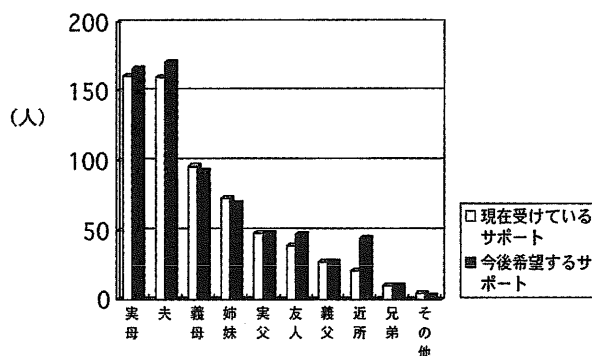


図2. 手段的サポート提供者上位10種類 (N=226)

5. 就業状況別にみたサポート提供者数および種類 (表2)

a) サポート提供者数

現在もっている心理的サポート提供者数は、有職の母親は平均8.6人、無職の母親は平均6.8人、あわせると平均が7.3人であった。一方、手段的サポート提供者数は、有職の母親は平均3.4人、無職の母親は平均3.2人、あわせると平均3.3人であった。

b) サポート提供者の種類

現在もっている心理的サポート提供者の種類は、有職の母親は平均5.3、無職の母親は平均4.3、あわせると平均4.5であった。希望する心理的サポート提供者の種類は有職の母親は平均4.9、無職の母親は平均4.6、あわせると平均4.7であった。現在もっている手段的サポート提供者の種類は、有職の母親は平均3.1、無職の母親は平均2.8、あわせると平均2.9であった。希望する手段的サポート提供者の種類は、有職の母親は平均3.4、無職の母親は平均3.5、あわせると平均3.5であった。現在もっている心理的サポート提供者の種類については、有職の母親の方が無職の母親に比べ有意に多かった。(p<0.05)

表2. 就業状況別にみたサポート提供者数及び種類 (N=226) *p<0.05

	平均 (数及び種類)	有職主婦	専業主婦
心理的サポート提供者数 (人)	7.3	8.6	6.8
手段的サポート提供者数 (人)	3.3	3.4	3.2
心理的サポート提供者の種類 (現在)	4.5	5.3 *	4.3
心理的サポート提供者の種類 (希望)	4.7	4.9	4.6
手段的サポート提供者の種類 (現在)	2.9	3.1	2.8
手段的サポート提供者の種類 (希望)	3.5	3.4	3.5

6. 専門職と家族員別のサポート提供者数 (表3)

23種類のサポート提供者について、医師、看護婦、保健婦、助産婦などの医療者やカウンセラーそして保母、託児施設のスタッフ、ベビーシッターなどの育児の専門家を「専門職」とし、夫、実母、義母、実母、義父、姉妹、兄弟などの近親者や友人、先輩、職場の人、子どもと同じ保育園に通わせている母親達、近所の人、子育てサークルのメンバーなど医療者や育児の専門家以外の人物を「家族員」として分類した。

まず心理的サポート提供者数をみてみると、母親226名は延べ62個のサポートを「専門職」から受けており、今後は延べ175個のサポートを望んでいた。また母親226名は、延べ950個のサポートを「家族員」から受けており、今後も延べ860個のサポートを望んでいた。手段的サポートについては「専門職」から延べ2個のサポートを受け、今後は延べ76個のサポートを望んでいた。また「家族員」からは延べ648個のサポートを受け、今後も710個のサポートを望んでいた。心理的・手段的サポートとも「家族員」については、現在もっているサポート

提供者数と今後希望するサポート提供者数とは差はみられなかった。母親たちは「専門職」によるサポートをほとんど受けていなかったが、今後は「専門職」からのサポートを希望していた。

表3. 専門職と家族員別のサポート提供者数 (N=226)

心理的サポート提供者	現在		希望
(専門職)	62	→	175
(家族員)	950	→	860
手段的サポート提供者	現在		希望
(専門職)	2	→	76
(家族員)	648	→	710

7. 母親へ心理的サポートを提供する専門職の種類 (図3)

心理的サポートの内訳を就業状況別でみてみると、有職の母親63名が現在もっているサポート提供者の種類では、保母と回答した母親の人数は22名、医師としたものは7名、看護婦としたものは1名、託児施設のスタッフとしたものは1名だった。今後希望するサポート提供者は、多い順に保母としたものは27名、医師としたものは12名、看護婦とカウンセラー、保健婦としたものはそれぞれ4名、以下託児施設のスタッフ、助産婦、ベビーシッターと続いていた。

一方、163名の無職の母親が現在もっているサポート提供者の種類は、医師と答えた母親は17名、助産婦としたものは4名、看護婦、保母としたものがそれぞれ3名、保健婦としたものは1名であった。希望するサポート提供者として医師を望んだもの37名、保健婦としたもの23名、保母としたもの17名、カウンセラーとしたもの14名、以下看護婦、助産婦、託児施設、ベビーシッターを希望していた。

有職の母親が現在もっている心理的サポート提供者は保母と医師で、無職の母親は医師であった。そして就業の有無にかかわらず、保母や医療者、カウンセラーなどさまざまな職種からの心理的サポートを希望していた。

8. 母親へ手段的サポートを提供する専門職の種類 (図4)

手段的サポートの内訳を就業状況別でみてみると、有職の母親63名中1名のみが保母からサポートを受けていた。託児施設のスタッフと保母をそれぞれ4名の母親がサポート提供者として望んでおり、ベビーシッターとしたものが3名であった。以下、看護婦、医師、カウンセラー、保母を希望していた。無職の母親では現在1名のベビーシッターからサポートを受けており、今後は18名の母親がベビーシッターを希望し、13名が託児施設の人、9名が医師、6名が保健婦からサポートを希望していた。以下、看護婦、保母、助産婦を希望していた。

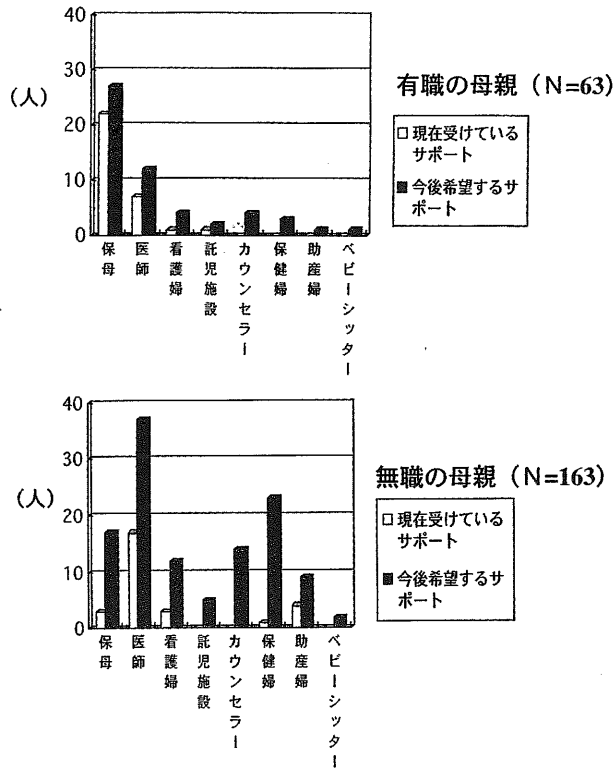


図3. 母親へ心理的サポートを提供する専門職の種類

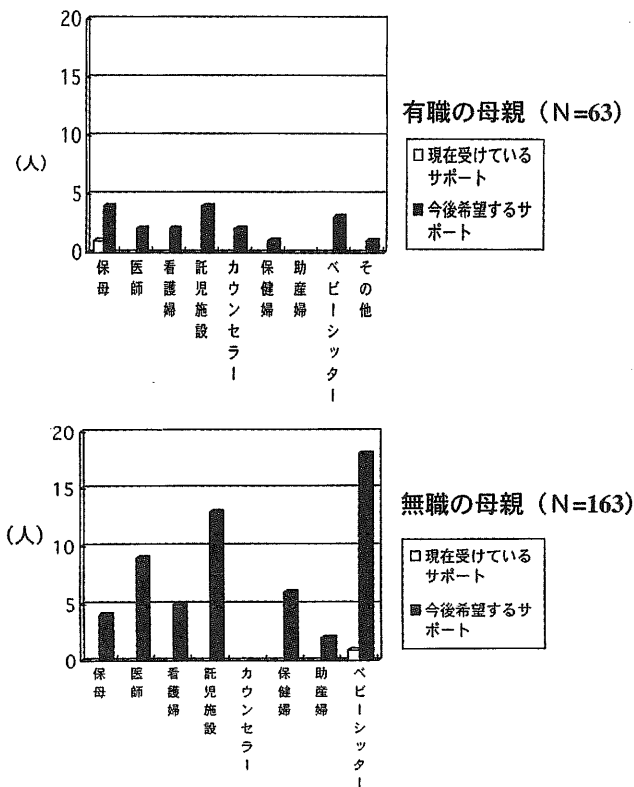


図4. 母親へ手段的サポートを提供する専門職の種類

考 察

育児期にある母親に対する現在のサポートと今後希望するサポートについて調査した結果、約8割の母親が夫と実母からサポートを受けており、今後もこれらのサポートを受けたいと希望していた。つまり夫、実母が母親にとって身近で、最も重要なネットワーク構成員であることが再認識された⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾。実母・夫・姉妹からは心理的・手段的サポートを受けているのに対し、友人・近所の人からは手段的サポートよりも心理的サポートを受けている母親が多く、6割以上の母親が心理的サポートを受けていた。

本アンケートでは、手段的サポートの定義を「母親本人の具合が悪くて誰かの手を借りたい時、すぐ駆けつけてくれる人」と定義したため、容易に依頼しやすい近親者からの手段的サポートが多くなったと考えられる。一方、心理的サポートは電話でも容易に受けることが可能であり、友人・近所の人からの心理的サポートも受けやすいと判断された。

現在受けている心理的サポートの種類については、有職の母親のほうが無職の母親に比べて多くの種類のサポートを受けていた。これは有職の母親は71%の母親が子どもを保育園に預けていて、職場の同僚、保育園での同じ年代の児をもつ母親などの交流が生じやすい環境にあることも一因と考えられる。心理的サポートの種類が必ずしも多ければ良いということでもないが、無職の母親に対しては、心理的サポートの種類を増加させるためには地域の支援システム作りなどや専門家の支援を考慮する必要があると思われる。また、心理的サポートは種類に加え質の問題もあり、今後種類が多ければ育児に有用であるかどうかの検討も必要であろう。このことは、母親が現在もっている心理的サポート提供者と今後希望する提供者はいずれも、夫・実母・姉妹はほぼ同じ率であったが、医師や保母など「専門職」からの心理的サポートを今後希望しているという結果からも推測できる。

手段的サポートに関しては、圧倒的に「家族員」とりわけ夫・実母が有職・無職に関わらず種類・質ともに、母親にとって一番の手段的サポートであるが、保母やベビーシッターからの手段的サポートを受けている母親2名のうち1名は夫、実母などのサポートが全く得られず、ベビーシッターのみという母親もあった。家族の事情により全ての母親が、手段的サポートを近親者から得られているとは言えず、「専門職」からの手段的サポートしか受けることができない母親が存在することも考慮する必要がある。

心理的サポート提供者としての専門職については、有職の母親は「保母」と「医師」を、無職の母親は「医師」を重要な心理的サポート提供者として認識していた。その中で「カウンセラー」を心理的サポート提供者として望んでいる母親が多かったのは、特筆すべき点と考えられる。これは当研究結果からも核家族が75%であり、ま

た子どもの数は1人か2人が8割以上と、核家族化・少子化がすすんでおり、「家族員」からの心理的サポートのみならず専門家の心理的サポートが要求されている。今後受けたいサポートでとりわけカウンセラーを希望する人が1割弱いたがこの意味が、医師などの専門職に比べ気軽に相談できるということでの希望かどうか検討されていない。カウンセラーに何を要求するのかを明らかにし、カウンセラーが少ない今日、看護職がその役を担えるかどうか検討が必要である。そして職業の有無に関わらず、母親は心理的・手段的サポートいずれもベビーシッター・託児施設のスタッフ・看護婦・助産婦・カウンセラーなど専門職からの支援を希望している。現況は保育園ですら母親の育児を助けるために、今後はこのような専門職からのサポートが得られるような広範囲なネットワーク作りが必要と思われる。

結 論

育児の母親は職業の有無に関わらず、育児専門職からのサポートを望んでいて、このニーズを満たすべく、母親の育児支援ネットワーク作りを検討する必要がある。

文 献

1. Norbeck J.S, 野島佐由美訳：ソーシャルサポートを測定する測定用具の開発過程，看護研究，17:1-9,1984.
2. 野村幸子：母親の育児不安にソーシャルサポートの与える影響，第28回小児看護集録，157-160, 1997.
3. 亀山美津子：育児支援ネットワーク，家庭教育研究所紀要，20:87-91, 1998.
4. 新道幸恵，松岡恵，平澤美恵子，佐々木和子，内藤洋子，熊沢美奈好：妊婦に対するソーシャルサポートとその関連性について，第8回日本助産学会学術集會集録，43, 1993.
5. 吉田孝子，野地有子，木下昌代，小山公代：4ヶ月児の母親が持つソーシャルサポートと持ちたいと望んでいるソーシャルサポート，公衆衛生学会抄録集，549,1996.
6. 飯田三貴子，飯田知子，宮中文子：産後1ヶ月の間に母親が受けた家族と専門職による子育て支援の実態，京母衛誌，7:34-35, 1999.
7. 瓢風須美子，大月恵里子，加藤尚美，川崎佳代子，小堂弘子，深沢睦，松尾邦江，宮原守子：産褥期におけるサポートの実態と家事・育児サポートに関する要因，第4回日本助産学会学術集會集録，62-63, 1996.

Actual Social Support Conditions for Nursing Mothers

—A survey of working wives and mothers—

Miyuki ARAKI¹, Kazuyo OH'ISHI¹, Hiroko IWAKI¹, Reiko WATANABE²,
Sanae IKEDA³, Shizuko TATUTA⁴, and Yumiko OGAWA⁵

- 1 Department of Midwifery, School of Allied Medical Sciences, Nagasaki University
- 2 Community Health Promotion Division, Health and Welfare Department, City of Nagasaki
- 3 Central Public Health Center, City of Nagasaki
- 4 North Public Health Center, City of Nagasaki
- 5 Department of Occupational Therapy, Nagasaki University Hospita

Abstract Both actual and desired (i.e., realistically ideal) conditions of the social support received/desired by nursing mothers were surveyed.

Nursing mothers were found to receive both psychological and practical/physical support from their own mothers as well as their husbands; it was thereby reconfirmed that the mothers and husbands of nursing women play important support roles. Medical doctors were also recognized as providers of psychological support by both those nursing mothers with jobs outside the home and those without. Both of these groups of women hoped to receive various forms of psychological and practical/physical support from day care center staff, counselors, and baby sitters as well, and it was concluded that a stronger support system for nursing mothers is necessary.

Bull. Sch. Allied Med. Sci., Nagasaki Univ. 13: 127-132, 1999